

わたくしたちは、利根川と手賀沼にかこまれ自然と歴史にはぐくまれた我孫子の市民です。
わたくしたちは、田園教育文化都市をめざす市民としての誇りを持ち、明日への願いをこめて、ここに市民憲章を定めます。
水と緑と土のおいがいっばいの 住みよいあびこにします
心と体をきたえ 生き生きと働き 伸びゆくあびこにします
老人を大切にし 子どもの夢を育て 幸せなあびこにします
ふるさとを愛し 文化を高め 豊かなあびこにします
みんなで話しあい きまりを守り 明るいあびこにします



杉村邸のサロン(応接間)

特集

杉村楚人冠

生涯のジャーナリスト、杉村楚人冠の「サロン」。手賀沼近くの高台にある自邸「白馬城」の門からはいり、母屋「枯淡庵」の玄関右脇にある。窓際の両袖机の上には、親しかった夏目漱石等の遺墨が置かれている。正面の書棚には自著の初版本と執筆記事のスクラップ・ブックが並ぶ。背高い書架には多くの洋書をふくんだ蔵書群。刺繍地の長椅子。絨緞の下は寄木造の床。格天井からシャンデリアがさがる。凝った造りのマントルピースには、贈られた胸像と外国時計そして観音像がのっている。ここは楚人冠のくつろぎの場であり、創作の場であった。そして楚人冠が主宰した湖畔吟社、その同人達が集う地域文化の研鑽の場であった。楚人冠は申年生まれ。



議長 鈴木一雄



市長 大井一雄

やるの年

平成4年の年頭にあたり、市議会を代表いたしまして、一言ごあいさつ申し上げます。
私は、昨年12月定例会におきまして、議長のお務めに就くことになりました。このことは私にとって身にあまる光栄であると同時に、いまさらながら、その重責を痛感し新たな決意をもって微力ではありますが、円滑なる議会運営と市政の伸展に誠心誠意努力をいたす所存であります。

我孫子市は、自然と調和した活力ある街づくりをめざし、都市基盤の整備や文化的諸施設の拡充など、「手賀沼のほとり、やすらぎのまち」の具現化に努めているところであります。私たちが市議会は、一丸となつてこの目標達成のため精進を重ねる所存です。今後とも、市民の皆様のご協力とご支援をお願い申し上げます。

我孫子市は、21世紀をめざし、新しい時代の一步を踏み出しました。その前途には、いまだ多くの課題を抱えております。とりわけ生活環境の変化を背景として、市民生活の様式は「物から心、画一から多様へ」と価値観や生活意識の変化が進み、心の豊さを創造できる都市環境の整備が待望されております。

第2次基本計画がスタートして2年目を迎え、順調に各種事業が進められております。市の将来都市像である「手賀沼のほとり、やすらぎのまち」実現のため、21世紀へ向けた新しい施策として、国際交流や情報公開などを位置づけるとともに、市民生活に大きく寄与する都市基盤の整備も重点事業として設定いたしました。

さらに、急速に進む高齢化や地球規模での自然環境保護などの諸問題につきましても積極的に取り組み、歴史と文化の香りあふれる美しいまちを大切にしながら、誇れるまちづくりの建設に邁進してまいります。今後とも、市民の皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

付けました「中心拠点・地区拠点づくり」の中心拠点の核として、平成7年度オープンをめざして我孫子駅貨物線跡地に複合文化施設を建設してまいります。この施設には、市民の皆様が気軽に利用できるよう、中央図書館、音楽ホール、ギャラリー、多目的ホールなどを導入してまいります。さらに、急速に進む高齢化や地球規模での自然環境保護などの諸問題につきましても積極的に取り組み、歴史と文化の香りあふれる美しいまちを大切にしながら、誇れるまちづくりの建設に邁進してまいります。今後とも、市民の皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

優雅なる生活



特集

楚人冠

杉村楚人冠を我孫子流に大特集。

杉村楚人冠。生涯のジャーナリストは名随筆家にしてマスコミ改革のリーダーとして確固たる新聞学者。直情径行の若き日に南方熊楠や鈴木大拙と交わり、地球を廻る記者時代は夏目漱石や柳田國男が職場の同僚。そして齢50過ぎて我孫子に居し地元日常の喜怒哀楽にとけこみ、手賀沼の魅力と田園生活の妙を湖畔文学に結晶。今回は辛辣にして温和、反骨にして風流、人生を「一管の筆」に託した天性のジャーナリスト、杉村楚人冠太郎を我孫子流に大特集。



杉村楚人冠の胸像。昭和13年、朝日新聞創刊50周年を記念して同社から贈られた。

雪の日の休日

大正13年(1924)春、我孫子を永住の地とした楚人冠。求めた手賀沼をのぞむ地を「白馬城」、我が家を「枯淡庵」と命名。そこから東京の新聞社に常盤線で毎日通勤。我孫子でくつろぐのは土曜と日曜。ここでは楚人冠の休日のライフスタイルをまず紹介。知人の作家の夏目漱石や禅の鈴木大拙の書をながめ、サロンで茶をすすりながら読書する。まさに風流人の休日。そして主宰する湖畔吟社で気のおけぬ地元の名々とひねる俳句の時は、月に一度の土曜の夜。湖畔吟社同人はなつかしそに当時を回顧。



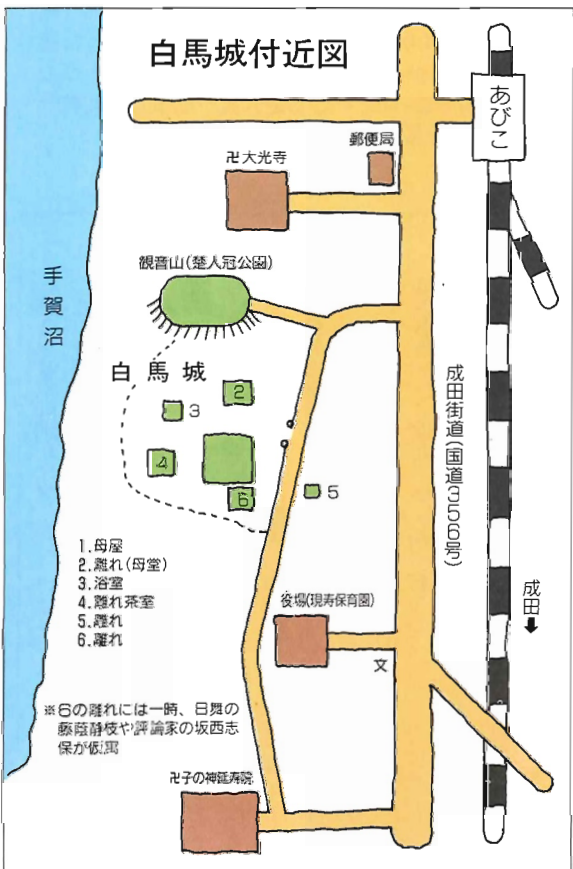
撮影 水津沈一郎



①楚人冠碑(楚人冠公園、河村晴山作・陶製)
②浴室近くの楚人冠と芭蕉。近くに母の離れ
③漱石道墨(楚人冠愛蔵)の芭蕉



明日は仕事に出るのです。以上は、昭和2年(1927)3月22日のことでした。(「湖畔吟」二十一日記より)



※6の離れには一時、日舞の藤原静枝や評論家の坂西志保が借居

楚人冠の愛した夏目漱石の書

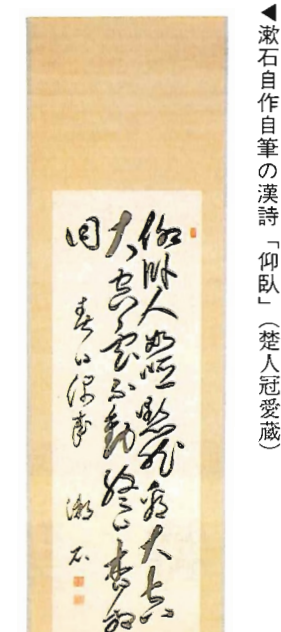


夏目漱石(1867-1916)

晩年、楚人冠がこよなく愛した夏目漱石の漢詩で漱石自筆の書です。仰臥人如啞。黙然着大空。大空雲不動。終日昏相同。静かに横たわり黙して大空と動かぬ雲と1日むかいあっている、超然とした境地が表現されています。漱石は明治43年(1909)夏、伊豆修善寺で胃潰瘍による多量の出血のため生死の境をさまよいました。いわゆる漱石の「修善寺の大患」で、療養中に遠ざかっていた漢詩へふたたび近づき、以後、その死まで詩作を深めました。この漢詩は修善寺で作られたものです。当時、漱石は、東京帝国大学と旧制一高の講師をやめて、東京朝日新聞に召請され入社していましたが、朝日新聞連載の漱石の小説は「虞美人草」「三四郎」「彼岸過迄」「心」「道草」「明暗」とずらり代表作ぞろい。漱石は大正5年(1916)に没するまで小説の新聞連載をつづけたのです。



漱石



漱石自作自筆の漢詩「仰臥」(楚人冠愛蔵)

茶がすんでから新聞を読みました。新聞がすんでから思いつきの原稿を少し書きました。風呂好きはまた湯にはいりません。途中、母一人子一人で育った楚人冠は坂の下にある母の隠居所をたずねます。母は炬燵にあたって南向きのガラス戸越しに雪景色を眺めていました。

観音山(楚人冠公園付近)から手賀沼へかけて降る雪がけむりのように見えていました。母は、遠い北国へ帰郷した手伝いの娘のことを案じていました。楚人冠も心配でした。昼少し過ぎでした。急と知った郵便局の親切で、娘の故郷から「ハハ、キトク」の電報が電話で入りました。そこで急ぎ折るかえし「娘はモウツクコロ」と電話で電報を打ちました。まもなく雪まみれの配達人がさきほどの電報文をあらためて届けにきました。返信をもち帰るといつてくれた配達人は厚くねぎなわれて帰りました。

それから、またサロンの安楽椅子に戻って、楚人冠は雪をみながら原稿を書きました。茶がはいったというので、また茶をすりました。そこへ、娘が故郷へ「ブジニカエル」との電報が着きました。隠居所の母へすぐに知らせたのはもちろんのことです。

しばらくして雪が小降りになるのを見て、庭の鳥の餌箱へ粟を入れました。日暮れからは、またサロンで読書をしたのでした。夜9時頃、もう一度、薬湯に入ろうとすると、早寝のはずの母の所からラジオが流す琵琶の音が聞こえます。湯をでて、まもなく楚人冠は寢床につきました。

明日は仕事に出るのです。以上は、昭和2年(1927)3月22日のことでした。(「湖畔吟」二十一日記より)

やがて湯をでてから朝食をとりました。風呂好きの楚人冠は、邸内にある湯殿に通う坂道の雪をかかせ、書生が沸かした朝湯を飲んだ。自慢の暖炉に火を焚き、安楽椅子に身を沈め、ペランダのむこうに雪を見ながら熱い茶をすります。

その日、楚人冠は職場の新聞社に出なくてもよい日でした。つい朝寝坊して7時頃に目が覚めました。外は一面の銀世界。前夜からの雪は大分つもって、まだ

盛んに降っています。風呂好きの楚人冠は、邸内にある湯殿に通う坂道の雪をかかせ、書生が沸かした朝湯を飲んだ。自慢の暖炉に火を焚き、安楽椅子に身を沈め、ペランダのむこうに雪を見ながら熱い茶をすります。

主人の白馬城

ただし土曜の朝は忙しい

これも雪の日の土曜日。楚人冠は朝から足に「ゲートル」を巻いて「オーバージューズ」をはき、身支度万全です。雪をまかまわず、この日も「ステッキ」をつけて我が家（緑2丁目）をいざ出発。楚人冠は時代を半世紀以上も先取りした週末2日制実践者で、休日の土曜の午前中は用足のため外出することにきめているのです。

この日は、まず町の中心に

再確認。また成田街道に戻り、「郵便局」（我孫子郵便局）へ。少し高額の貯金をひきだし、ついでに夜間配達物の断り。次に「銀行」（東京銀行我孫子出張所）に同銀行の小切手が東京で交換できるかを問い合わせ。そこから、出入の工場の頭梁の家（佐藤鷹蔵宅）に。新用を買った老松の一部を材料として残す相談。ひとまず町中の用は済ませたと次は東のはずれにある「役場」（我孫子町役場、現寿保育園）へ。納税

を小切手でした件で問い合わせ。小切手はそのままで、税金は「収入役」（湯下真三郎か）が立て替えるの答え。また町中に戻って、「お寺」（大光寺）に先の老松を見分。「和尙」（志賀良淳）と相談。次に白馬城の田圃を小作している「ぢいやの家」（？）に立ち寄り、収穫米の味でしばし問答。そこから沼べりの森にある赤瓦の一軒家「万緑叢中紅一点荘」（鈴木重定宅）を訪ね。養魚試験場建設の寄付を依頼。帰り道「画家」の手造りの家（宮田輝之助）をたずねると、養鶏もやる画家は石油カンで鶏の餌箱を製作中。

以上、なんと全部で12か所をグルッと巡って昼少し前、泥だらけになって帰宅しました。この午前の疲れで、「いつしか」と午睡をしたのは昭和2年3月5日のことだとこれも本人自身が記しています。「湖畔吟」「土曜の午前よ」訪問先は古老からの教示



「白馬城」の門近くに立つ楚人冠。この頃、我孫子では珍しかった自転車、よく町中へ外出。

「楚人冠」と「白馬城」の由来

楚人冠。「楚人は沐猴（ちゅうちゅう）にして冠するのみ」の中国故事からとり、自分は猿が冠をつけたようなもので小人物にすぎないと謙遜をこめたペンネームです。ところが受けとり方はいろいろあって、「楚囚その冠を纏（まと）す」との故事からひき、獄中（ごくちゆう）でも冠をとらぬ誇り高き号と解釈される場合も。白馬城。マイホーム探しの楚人冠は、初め我孫子駅東北の我孫子城址に着目（明治44年）。館を建て「白馬馬に非ず」と論じ楽しむことを空想。その地を「白馬城」と命名するが、其地交渉は不調。そこで気を一新させて手賀沼を望む高台1000坪余りの地を求め、念願の「白馬城」と名付け、まず山荘を建て、やがて永住の地としたのです。



「白馬城」の初版本

楚人冠は半谷に商売の骨や人生訓を語りました。半谷は大いに更生したといいますが、「口笛の小唄遠のく春の宵」と半谷は人柄のよく出た句を残しています。

楚人冠は月に1度の例会には開始時間の5分前に必ず姿を見せ、同人達も田舎時間を改めざるを得なかったといえます。こんなところにも言わず語らずの教えがありました。俳句をあまり得意としなかつた楚人冠は同人の新築祝に次の言葉を送っています。

楚

湖畔吟社のひとびと

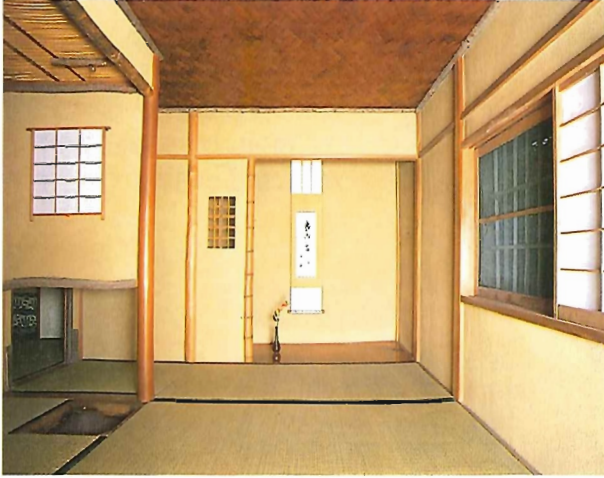
楚人冠を囲み、遊んで、学ぶ

「若い人々の娯楽機関というものの全然欠けている我孫子の町にさういふ娯楽の一つともなり、又新旧旧識相語らう機会ともなり、進んでは我孫子の発展を図る名案の創造所ともなりうるかと思つて兎に角有志相寄り会つて俳句である……」

と、我孫子を終生の地として居を定めた楚人冠の提唱で、昭和5年10月湖畔吟社が結成されました。同人は駅員や医者、会社員、自転車屋、茶葉屋、画家、詩人、青年団長、農業、博徒親分といろいろでした。当初は8、9名であつた

同人も、後には取手などからの参加もあり30名にも達し、「湖畔吟社句集」を発行しました。楚人冠は俳句を通して村の人々との交流を深め、自然や文化、そして人生や社会観等をヒューマニティーな精神で指導しました。現代風にいえば青少年育成と地域文化の発展に尽力したのです。たとえば、同人のひとり小倉半谷という「博徒の親分」は看板屋を生業としていまし

楚



④鈴木大拙「虚堂雨滴声」（楚人冠愛蔵）。禅思想を世界的に広めた大拙（Suzuki Daisetsu）は青年時代からの知己。⑤離れの茶室「清接庵」。正面の掛軸は楚人冠書の「良馬は奔らす」楚人冠は昭和9年に八幡平（秋田県）で落馬し負傷、「落馬記」がある。八幡平には落馬記念碑が建つ。



(1872~1945)

杉村楚人冠

市民による地域史や自身史を提唱し、我孫子市史とも結ばれる歴史家の色川大吉教授は、興味深くも30余年前の若き日、ある歴史辞典に楚人冠を紹介しています。

新聞記者。本名は広太郎。新聞学者。随筆家としても有名。少年時は当時の文学青年の活躍舞台であった「文庫」などに投書。英吉利法律学校・先進黨院などで法律学を修め、1903（明治36）年朝日新聞社に入社。トルストイの「日露戦争論」の全訳掲載、戦後の



⑤楚人冠碑落成記念参加の人々（昭和26年）⑥楚人冠が愛した筑波山全景



と、我孫子を終生の地として居を定めた楚人冠の提唱で、昭和5年10月湖畔吟社が結成されました。同人は駅員や医者、会社員、自転車屋、茶葉屋、画家、詩人、青年団長、農業、博徒親分といろいろでした。当初は8、9名であつた

俳句を知らず俳諧を解せず、俳境をたのしみ俳句を愛す私に俳句を作らざる俳人を以て自ら任す

楚人冠自賛

現在、湖畔吟社創立当初からの同人は（川端龍子・表紙画）楚人冠没後号が重ねられた。

楚



楚人冠は月1度の例会には開始時間の5分前に必ず姿を見せ、同人達も田舎時間を改めざるを得なかったといえます。こんなところにも言わず語らずの教えがありました。俳句をあまり得意としなかつた楚人冠は同人の新築祝に次の言葉を送っています。

俳句を知らず俳諧を解せず、俳境をたのしみ俳句を愛す私に俳句を作らざる俳人を以て自ら任す

楚人冠自賛

現在、湖畔吟社創立当初からの同人は（川端龍子・表紙画）楚人冠没後号が重ねられた。

筑波見ゆ 冬晴れの 洪いなる空に

楚



左上、楚人冠愛蔵「湖畔吟」の初版（昭和3年刊）。のち「続」、「続々」とつづく。左下、「湖畔吟」第1回を掲載した「アサヒグラフ」（大正13年新年号）

◀「手賀沼と水鳥」黒田長久（山階鳥類研究所長）画。作者の父、黒田長禮も著名な鳥学者で、愛鳥家の楚人冠とも面識があった。



自転車好きの楚人冠

（植木を）出入の者や近所の人に頼んでおくと、どこそこに見に行くと、気に入れば買ひ取る。この見に行く時に、嫁とりの見合に行くやうな楽しさがある。「椿」より

楚人冠が手賀沼の湖畔、我孫子に定住していたのは、大正の末から昭和20年に亡くなるまで。当時の我孫子や手賀沼は、彼が好んだみどり豊かな「田舎」その時代に、鳥たちとの交流を「湖畔吟」の中で綴っています。

しばしば登場する鳥は、彼の庭に訪れる小鳥たちです。餌台・水浴び場を設けて、野鳥たちの出会いを楽しんでいます。これら一連の庭に小鳥を呼ぶための餌台などは、戦後の愛鳥週間の運動の中で、全国的に広まった愛鳥運動そのもの。まさに、時代の先端を歩んでいました。

巣箱には、なぜか興味があったようです。巣箱の文献を国内や米国から取り寄せ、日本鳥学会で作っていた巣箱も購入しています。さらにその巣箱を参考にして、計15個も

「湖畔吟」の中では、手賀沼の水鳥についてあまり語られていませんが、「鳥屋」にマガモを注文する話があります。いまはすべての野鳥を捕獲することが禁止されていますが、当時は手賀沼に鳥獣組合

ジャーナリスト楚人冠は名文家。そのなかでも絶品といわれるのが随筆。楚人冠のエッセイ『湖畔吟』は手賀沼と我孫子周辺の風物人心を詩情豊かに描いた湖畔文学の傑作。自ら創刊した『アサヒグラフ』に大正13年新年号から連載がはじまるや日本中で愛読され評判に。



門と垣根と庭の立木が見える白馬城前景

楚流、沼周辺の風物

沼や沼畔の事物を詳細に観察し、綴ったものが「湖畔吟」。それは、手賀沼の詩でもありません。その中から数篇を取り上げ、短かく紹介してみよう。

沼の夏、真菰の茂みに小船を入ると、鶴や鳩、翠切など水鳥がバツと飛び立っていきます。又、宵闇の沼辺を歩けば螢がスイスイ飛び交い、夜更けになると泉の音が山荘に聞えてきます。楚人冠は、夏の朝、行くあてもなく沼で小舟を乗りまわすことを一つの楽しみにしています。

秋も深くなると、夕方から霧が一面にたちこめ、夜が更けるにつれて益々濃くなっていきます。これが、木の葉にたまり、枝を伝わって、銅板の屋根が一面にたちこめ、夜が更けるにつれて益々濃くなっていきます。これが、木の葉にたまり、枝を伝わって、銅板の屋根が一面にたちこめ、夜が更けるにつれて益々濃くなっていきます。

冬になると、朝の霜や氷の様子から、やはり東京より寒いようです。しかし昼近くになり、ガラス戸越しに陽の光がさし込んでくると東京より暖かくなります。楚人冠は気楽に縁側に寝ころんで新聞を読んだりします。こんな時何となく充実した幸福感を味わっています（大切な新聞を読む事は暇潰しではありません）。

秋晴の一日——野には見渡すかぎり稲の穂が黄ばんで、その間に蝗と赤蜻蛉が飛びかっています。里には早咲の山茶花がちらほらと開き初め

て、柿の実が枝もたわわに垂れ下がっています。村の人々は稲かりの支度に忙しげに行きかき、童は茸狩にと山路を急ぎます。のびやかな秋晴です。こんな小春日和の日に、一人であらゆる畦道を散歩しながら、田園生活の楽しさをしみじみ感じています。

楚人冠邸には、杉や松が数本もありました。従って天気の良い日は鋸を持って廻って歩き、気に入れば枝を切り落とします。そして、雨の日は家にあつて本を読むことにしています。これを楚人冠は、「晴伐雨読」と言っています。

庭の野鳥と巣箱

出来事は細大洩らさず心得ていました。沼から「丸木舟」があがったと聞けば、早速出かけて自ら確かめ、さらに舟に関する専門の考古学者を案内して来て徹底的に調べています。

また、この沼の鰻が日本一だと聞けば、またその道の玄人を訪ね、「この鰻の味は言わずとも、玄人仲間ではうまでもなく、友人仲間では



今も手賀沼に咲く水蓮

夏至る毎に湖面に名も知れぬくさぐさの草が花を開く。布袋草の紫や、河骨の黄など、色とりどりの花が咲く。野生の睡蓮が黄がくつた白い花をつける。「水郷夏趣」より

「湖畔吟」と



上は、日本鳥学会（東京帝国大学理学部動物学教室）が当時、愛鳥家に勧めた巣箱の一つ。1セット3箱で、4セット都合12箱を売りました。下は、ゴルフ場にかげられた現代の巣箱。

健康ガイド



保健センターで

湖北台1の12の16
(湖北駅南口徒歩2分)
☎(87)1131

しあわせ学級

これから父親、母親になる方、ぜひご夫婦でご参加を。

▼日時 1月18日(土)午前9時30分から11時(受付は当日午前9時15分から)

▼内容 *16、映写「母と子のきずな」*赤ちゃんのお風呂の入れ方(実習) *その他

母親学級

▼時間 午前9時30分から11時30分(第3回は午後1時から3時)

▼持参 母子健康手帳と筆記用具は毎回。第1回はバスタオル1枚。第4回はさらし布150cm位、糸、針、ハサミ、マチ針を持参してください。

回数	日(月)	内容
第1回	1月6日(月)	お産の話 妊婦体操
第2回	1月13日(月)	妊娠中の歯科衛生 妊娠中と産後の保健
第3回	1月21日(火)	妊娠中の栄養 妊娠中毒症の予防(医師の話)
第4回	1月27日(月)	手づくりオムツ 赤ちゃんの養護

母親学級日程

育児相談

身体計測、赤ちゃん体操、養相談、歯科相談など育児についての細かい相談を行う。

実施日	受付時間	該当児
1月7日(火)	9:15~9:45	平成3年9月生 (通知かきます)
1月14日(火)	(該当児)	
1月21日(火)	9:45~10:30	0~6歳 (相談のある方)
1月28日(火)	(その他相談のある方)	

1月の日曜・休日当番医

▶診療時間 午前9時から午後5時
▶持参するもの 保険証

日	病・医院名	電話
1日	我孫子聖仁会病院	88-3111
2日	我孫子東邦病院	82-8166
3日	平和台病院	89-1111
5日	アピコ外科整形外科病院	84-7321
	桜井医院	82-2916
12日	我孫子東邦病院	82-8166
	御子柴耳鼻咽喉科	88-5678
15日	アピコ外科整形外科病院	84-7321
	エムピレオ保養医院	89-2641
19日	我孫子つくし野病院	84-2211
	天王台整形外科	82-5071
26日	我孫子聖仁会病院	88-3111
	竹内医院	82-5836

夜間の急病のときは

テレホンサービス ☎(87)1141

酒害相談のご利用を

今月の相談は保健センターで

年末年始は、お酒を飲む機会が増え、あなたの肝臓は疲れていませんか。

また、お酒をとおして家族や周囲の人たちに迷惑をかけていませんか。もし、かけているとしたら、あなた

もアルコール依存症の仲間入りです。自分一人で酒を断つのは、かなり難しいことです。

相談(広報「市民カレンダー」参照)を行っています。お気軽にご相談ください。

保健センターでは、アルコール依存症などお酒で悩んでいる方や家族のために、酒害

相談(広報「市民カレンダー」参照)を行っています。お気軽にご相談ください。

健康相談

日頃健康に不安を持っている方を対象に、保健婦が健康相談を行います。お気軽にご利用ください。

▼日時 1月10日(金)午前9時30分から11時30分

▼場所 市役所本館1階市民課前談室(無料)

1歳6か月児健康診査

1歳半の頃は、基本的な生活習慣を身につけさせる大切な時期です。健全に育てていくためには、1度母親、父親の役割をみつめなおしてみませんか。

▼持参 母子健康手帳、問診票、歯ブラシ(大人用)、子供用票(各1本)

▼1歳6か月児健康診査日程

1月16日(木) 1月9日(木) 9:15~10:30

1月21日(火) 1月23日(木)

栄養相談

あなたの食事、野菜は足りていますか。甘いものをとりすぎていませんか。食事のカロリーチェックや献立アドバイスを行います。肥満や糖尿病、高血圧などで食事療法の必要な方もお気軽にご相談ください。

▼申し込み 電話予約(日時をお知らせします)

▼日時 午後1時30分から2時30分

▼持参 母子健康手帳

▼ツバクリン反応判定BCG

精神衛生相談

心の悩みをもった方のため、精神衛生相談を行っています。

▼日時 1月7日(火)、28日(火)午後1時30分~2時30分

▼対象 昭和63年10月生まれ

▼場所 市保健センター

▼持参 母子健康手帳、歯ブラシ、尿

柏保健所から

3歳児健康診査

▼日時 1月14日(火)受付午後1時15分から2時15分

▼場所 市保健センター

▼持参 母子健康手帳、歯ブラシ、尿

予防接種は医療機関で

次の予防接種は医療機関で受けて下さい。実施医療機関は、「保健センターのご案内」をご覧ください。

麻疹(はしか) 1歳の誕生日から就学前までの幼児(1回目)接種。なお、生後18か月から36か月までに接種することが望ましい。(8月を除く年間)

三種混合(百日せき、ジフテリア、破傷風) 1歳の誕生日から就学前までの幼児。なお、1期は生後48か月までに318週の間隔で3回接種。2期は1期終了後、12か月から18か月の間に1回接種。(8月を除く年間)

療育相談 対象 整形外科的な心配のある18歳未満の乳幼児と児童

▼日時 1月23日(木)午後1時から2時(柏保健所)

▼内容 整形外科医による診察・指導、保健婦による相談

▼持参 母子健康手帳



おはなし会

子供たちに楽しい絵本との出会いを、すこやかな成長をという願いを込めて、楽しいお話や絵本の読み聞かせを行います。4歳から9歳くらいまでの子どもが対象です。

成人の日図書館案内

今年、成人式を迎えるみなさんに、心に残る本を紹介いたします。お気軽に1冊を見つけてください。

▼書名(著者)
*青が散る(宮本輝) *風の歌を聴け(村上春樹) *コインロッカーベイビーズ(村上龍) *聖少女(倉橋由美子) *永遠なる序章(椎名麟三) *ライ麦畑でつかまえて(サルンジャー) *ガープの世界(ジョン・アーヴィング) *10月はたそがれの国(レイ・ブラッドベリ) *アルジャーノンに花束を(ダニエル・キイス) *本場の戦争の話(ティム・オプラーイエン)

◎布佐分館
▼作品・作者 七宝焼4点・渡辺大緑

◆展示期間 1月7日(火)から30日(木)

ミニギャラリー

◎湖北台分館(墨絵)
▼作品・作者 フリージャ・武石富佐子(吉野)、千両・山口土士代(新木)、梅・阿部さた(新木野)、水仙・馬場喜美子(湖北台)、山茶花・百瀬重惟(我孫子)

そよかせ号(移動図書館)1月の日程(荒天中止)

曜日	日	ステーション名	場所	時間(午後)
水	8・22	中時	中時亀田谷公園	1:30~2:10
		湖北	上新木青年館	2:20~2:50
		新木野	あらき野ストア裏	3:10~4:00
木	9・23	天王台東	天王台東児童公園	1:30~2:00
		天王台西	浅野谷3号公園	2:10~2:50
		青山台	柴崎台4号公園	3:10~4:00
金	10・24	久寺家	久寺家あけぼの公園	2:00~2:45
		つくし野	東急ショッピングセンター裏	3:00~4:00
水	29	布佐	都青年館	2:00~2:30
		布佐平和台	布佐南近隣センター	3:00~4:00
木	16・30	白山	三洋電機社宅入口	1:40~2:20
		並木	丸石家車庫駐車場	2:30~3:00
		台田	台田池尻公園	3:20~4:00
金	17	根戸	根戸近隣センター	2:00~2:40
		つくし野	東急ショッピングセンター裏	3:00~4:00



かんだ たかゆき
神田 崇行くん
(中峠・1歳6か月)

いのうえ むつみ
井上 睦美ちゃん
(白山・1歳4か月)



すこやかちゃん

平成3年12月1日現在 *世帯数39,766世帯
人口121,953人 男61,185人 女60,768人

- 市役所本庁 85-1111
- つくし野支所 84-8801
- 湖北台支所 88-0828
- 湖北支所 88-2111
- 布佐支所 89-2358
- 教育委員会 85-1151
- 水道局 84-0111
- 消防署 84-0119
- 少年センター 84-1900
- 保健センター 87-1131
- 市民会館 84-3311
- 中央公民館 82-0515
- 鳥の博物館 85-2212
- 市民体育館 87-1155
- 市民図書館本館 84-1110
- 湖北台分館 87-3055
- 布佐分館 89-1311
- 移動図書館 87-0909
- 都市改造事務所 85-1171
- 身体障害者福祉センター 88-0141
- あらかぎ園 88-4188
- つつじ荘 88-0123
- 生活環境課(浄化槽) 87-2379
- (ゴミ) 87-0015 (し尿) 88-2547
- 布佐南近隣センター 89-3740
- 天王台北近隣センター 82-9988
- 根戸近隣センター 83-5363
- 市民センター 寿83-7722
- 湖北台88-9927
- 布佐89-1193

もよおし

成人式



▶月日 1月15日(祝)
▶場所 市民会館ホール
▶受付 午前10時30分から11時
(式典午前11時から午後0時30分)
▶該当者 昭和46年4月2日から
47年4月1日までに生まれた方
※該当する方には通知しましたが、
1月8日までに届かない場合は、
社会教育課社会教育係☎(85)1151へ
お問い合わせください。
当日は、市内小中学校卒業時の
担任の先生方が出席される予定で
す。また、参加者には記念品として
アルバムを用意しています。

消防出初式

新春恒例の消防出初式を行います。
当日は昨年結成された婦人防火
クラブも参加予定。各種訓練の
成果が披露されます。ご覧下さい。
▶日時 1月11日(土)午前9時
▶場所 湖北台中央公園(雨天の
場合は市民会館)
▶問い合わせ 消防本部

あひこ子ども劇場

「龍の子太郎」
▶日時 1月18日(土)午後4時開
演(市民会館)
▶入場料 3900円(会員無料、入会
受付中)
▶問い合わせ 同劇場☎(88)9078
(月~金曜、午前10時~午後3時)

新春我孫子将棋大会

▶日時 1月3日(金)、15日(祝)、
26日(日)午前10時から
▶場所 金子卓球場(市役所近く)
▶参加費 1500円(昼食付)
▶問い合わせ 金子☎(82)3394

家庭婦人ダブルス卓球大会

▶日時 2月4日(火)午前9時受
付(市民体育館)
▶対象 市内在住の家庭婦人
▶種目 ダブルス(リーグ戦後ト
ーナメント)、参加費1組1000円
▶申し込み・問い合わせ 1月17
日(金、必着)までに、現金書留で住
所、氏名、電話番号、所属名を明記
し参加費を添えて並木5の2の9
池田香代子☎(83)2444へ

ぼしゅう

パソコン講座生

▶日程 1月23日から2月20日の
毎週木曜、午後6時30分から9時
▶場所 中央学院大学123教室
▶定員 若干名(商工業者および
その従業者を優先とし、定員に満
たない場合は18歳以上の方も受付)
▶内容 BASICプログラミング
▶受講料 新規8000円(テキスト、
フロッピー代含む)、継続5000円
▶申し込み・問い合わせ 1月6
日(月)から10日(金)までに電話で
商工観光課☎(85)1111内線505へ

産・育休補助教員

県教育庁東葛飾地方出張所では、
管内の小・中学校の産・育休補
助教員等を募集しています。
▶職種 講師、養護教諭、技師(米
養士)、主事(事務)
▶資格 各職種の免許状所有者、
主事については高校卒業者
▶申し込み・問い合わせ 県教育
庁東葛飾地方出張所管理課(松戸
市小根本7) ☎0473(61)2124へ

お知らせ

都市計画公園変更案の縦覧

都市計画公園の変更案の縦覧を
次のとおり行います。
▶名称 ①和田前公園、長丁西公
園、丑高公園(いずれも市佐の1部
の区域)、②北柏ふるさと公園
▶縦覧期間 1月8日から22日
▶縦覧場所・問い合わせ 公園緑
地課

東葛五市長、新春に語る



千葉テレビ
新春特別番組

大井市長はじめ、流山市、柏
市、野田市、松戸市の市長が一堂
に会し、各市での政策を語る
「'92東葛五市長 新春に語る」
が、1月2日(木)、千葉テレビ放
送(UHF46チャンネル)で放映
されます。

番組では、各市長の今年の抱
負や共通テーマ「健康と体力づ
くり」などについて語り合いま
す。
どうぞご覧ください。
▶放映日時 1月2日(木)午後
5時から6時

明るい話題

♡市民の方(匿名)から緑の基金に
と1万8160円の寄付がありました。
♡荒井表具店様(天王台)から老人
福祉センターつつじ荘にと電機マ
ッサージ機の寄贈がありました。

♡今村賢之助様(並木)から社会福
祉施設整備基金にと喜楽長寿会で
のマジックショーの収益金5000円
の寄付がありました。

日曜当番医・1週間の行事

テレホンサービス☎(85)1313

さわやかハートちば

微笑みから、はじめよう

「さわやかハートちば」は、県
民1人ひとりから千葉県を訪れる
人々を温かく迎え、また、私たち
県民もお互いが心ゆたかにふれ
あい、素晴らしい「ふるさと千葉」
を創りだしていこうとする
県民運動です。
この運動は、特別の形式を持
ったり、特定の行動を求めるの
ではなく、例えば毎朝家族の間

や職場、学校への道すがら、出会
い、すれちがう人達とあいさつ
を交わしたり、車の運転中に道
をゆずったりするなど、だれで
もがどこでもできる「さわやか
親切・思いやり運動」です。
皆さんのご協力、実践をお願
いします。
=東葛飾地区さわやかハートち
ば推進協議会(東葛飾支庁内)=

いっしょに歌いませんか =合唱団員募集=

我孫子合唱連盟

練習場所の★の印は、場所が確保された場合に限りです。

合唱団名	練習場所	練習日・時間	連絡先(代表者)
葦 笛	★湖北台市民センター	毎週火曜日 AM10:00~12:00	小林 88-3373
あひこエコース	高橋パレスタジオ	毎週月曜日 AM10:00~PM12:30	遠藤 84-8267
あひこ児童合唱団	和田幼稚園	毎週金曜日 幼児 PM3:00~4:00 小学生 PM4:00~6:00	新井 89-4571
我孫子市民合唱団	★根戸近隣センター ★美玉台北近隣センター	第1・3・5日曜日 PM8:00~8:30 第2・4日曜日 PM8:00~8:30	津田 84-7965
アンサンブル・レオーネ	慈 慈 保育 園	毎週土曜日 PM8:00~10:00	柏野 87-3285
ヴィクセンズ	★湖北台市民センター	毎週木曜日 AM10:00~12:00	小林 88-8364
回 転 木 馬	★天王台北近隣センター 又は ながよし保育室	毎週土曜日 AM9:30~12:00	仲町 82-8435
コ ー ル ・ て が	中 央 公 民 館	第2・4金曜日 PM1:00~3:00	有野 88-7743
し お さ い	根 戸 公 民 館 (柏駅より徒歩3分)	毎週水曜日 PM3:00~5:00	西村 84-6858
シャウティング・フォックス	湖北台10丁目自治会館	第1・3・5日曜日 PM6:00~8:30 第2・4日曜日 PM6:00~8:30	片倉 87-1377
少年少女合唱団・コーラス「輪」	若草幼稚園	毎週日曜日 AM9:15~10:30	藤田 87-1252
女声アンサンブル 蒼	栗 原 会 館	毎週金曜日 AM9:00~PM12:30 PM1:00~3:00(発声)	大内 34-4720
女声合唱団「道」	柴崎神社参集殿	毎週月曜日 AM10:00~PM12:30	湊 82-9646
女声合唱団 La Mère	和田幼稚園	毎週木曜日 AM10:00~PM1:40	藤沼 89-1052
女声合唱団「ローレライ」	新木野青年館	毎週木曜日 AM10:00~12:00	小林 87-1765
シルバーエコース	湖 北 台 学 民 館 (湖北台公民館裏)	第2・4日曜日 AM10:00~12:00	久保田 82-7231
長寿大学コーラスクラブ	市民会館大会議室	第2・4水曜日 AM9:50~12:00	荻村 84-8437
千代田混声合唱団	井 手 日 幼 稚 園	第1・3・5日曜日 PM7:00~9:00 第2・4日曜日 PM7:00~9:00 (夜7時以降)	高 橋 83-3112
布佐ポピーズ	★布佐南近隣センター 和 田 幼 稚 園	毎週火曜日 AM10:00~12:00	岩 堀 89-0145
プリムラ・コーラス	中 央 公 民 館	毎週水曜日 AM10:00~12:00	安 藤 87-2616



1 水	●休日当番医=テレホンサービス ●休日救急診療日=休日救急診療所(市民会館内)9:00~11:30 ●市民図書館休館 ●市民体育館休館 ●つつじ荘休館 ●鳥の博物館休館
2 木	●休日当番医=テレホンサービス ●休日救急診療日=休日救急診療所(市民会館内)9:00~11:30 ●市民図書館休館 ●市民体育館休館 ●つつじ荘休館 ●鳥の博物館休館
3 金	●休日当番医=テレホンサービス ●休日救急診療日=休日救急診療所(市民会館内)9:00~11:30 ●市民図書館休館 ●市民体育館休館 ●つつじ荘休館 ●鳥の博物館休館
4 土	●酒害相談=保健センター9:30~11:30 ●休日救急診療日=休日救急診療所(市民会館内)9:00~11:30 ●市民図書館休館 ●市民体育館休館 ●鳥の博物館休館
5 日	●日曜当番医=テレホンサービス ●休日救急診療日=休日救急診療所(市民会館内)9:00~11:30 ●市民図書館休館
6 月	●消費生活相談=市民相談室10:00~15:00 ●心配ごと相談=寿市民センター9:00~15:00 ●市民図書館休館 ●鳥の博物館休館 ●つつじ荘休館
7 火	●法律相談=市民相談室9:00から先着10名程度
8 水	●消費生活相談=市民相談室10:00~15:00
9 木	●登記相談=市民相談室10:00~12:00
10 金	●不動産相談=市民相談室10:00~15:00 ●健康相談=つつじ荘10:00~11:30
11 土	●市役所閉庁(一部の施設は除く)
12 日	●日曜当番医=テレホンサービス ●休日救急診療日=休日救急診療所(市民会館内)9:00~11:30
13 月	●交通事故相談=市民相談室10:00~15:00 ●心配ごと相談=保健センター9:00~15:00 ●市民図書館休館 ●つつじ荘休館 ●鳥の博物館休館
14 火	●法律相談=市民相談室9:00から先着10名程度 ●つつじ荘休館
15 水	●休日当番医=テレホンサービス ●休日救急診療日=休日救急診療所(市民会館内)9:00~11:30 ●市民図書館休館 ●つつじ荘休館
16 木	●年金相談=市民相談室10:00~15:00 ●健康相談=つつじ荘11:00~12:00 ●鳥の博物館休館



手賀沼 我孫子

白馬城の紳士

模型として売ってしま
す。地輪の完全なイミ
テーションに、一揃い
いくらと正札をつけて
売っているのは恐らく
日本中にあるまいと楚
人冠は言っています。
「海風」を知らない湖
畔吟社の面々——娛樂
の何もないこの地に、
一つ娛樂をと、楚人冠
が創った俳句会の会員
たち。駅員、会社員、自
転車屋、八百屋、茶葉屋、画
家、詩人、青年団長等々。素人
ばかりだし、田舎のことだか
ら分り易い題をと「鳴子」をあ
げると知りません。「海風」も知
りません。「田螺」も知らない
人が多く、「初午」のお祭りも
しないなどと、楚人冠を四苦
八苦させた面々です。

いい、博士が来たら、恩師の
ようにその指示に従うので、
病人の手当てで手遅れがあり
ません。子供が中耳炎で東京
に入院する時は、一緒に付添
ってくれ、料金を請求しませ
ん。この村は医者に恵まれて
いると胸を張っています。
見知り合いの人々——知る
知らないに關係なく「お早う」
と言ひ交わす。小銭の持ち合
わせがない時でも快く「お持
ちなさい」という煙草屋、俄雨
にあうと傘と提燈を貸してく
れる駅前の人々。買おうとし
た薬がないと、東京から取り
寄せてくれる薬屋等々。

楚人冠は、村居11年を振り
返り、「平和な安楽な生活であ
った」と「湖畔吟」の中で述懐
しています。(昭和10年)
一方、白馬城の上流紳士と
村人では、生活様式も「階層」
も隔たりが大きく、「湖畔吟」
にその差異を意識した発言も
みられます。
そのような発言の中から、
村人がどう楚人冠をみていた
のか、村人にどう見てほしい
と思つたのか、鏡像として捉
えることの出来るものを、楚
人冠流に、シニカルに、幾つか
紹介しましょう。

近所の者が親類の
者か、寄つてか、つて助
けることになつてゐる。
二十マイルさきの東京
に吹いてゐる、せち辛い
浮世の風は、まだ此処ま
で吹いて来ない」と語り
ながら、事情を知らずい
い気になつて慈善に走つた軽
率さを自戒しています。
「なまけもの」では、「年も
越せないやうな貧乏人が一人
もゐない位だから、この辺は
よくよく暮し易いところに相
違ない。それがあらぬか、なま
けものが多い」と辛辣です。
「この雨の降るのにお出かけ
ですか」と不思議がる村人の
挨拶に、雨の日にも出かける
ければならぬ楚人冠はぶ然と
したのでしよう。「なる程、こ
の土地では百姓か、土方か、植
木屋か、左官か、戸外で仕事す
るものばかりと言つてもいい、
位だから、雨が降りさへすれ
ば休むものと定めてある」と、
一人合点の解釈ながらライフ
スタイルの違いを認めていま
す。

楚氏もびびり顔の面々

楚人冠は、我孫子に居を構
えるについては一抹の不安を、
当初抱いていました。

ここに育まれた人々と人情で
「思ひ切つて来て見ると、人
気も悪しからず、気候も寒か
らず……。母も妻も今まで住ん
てゐた大森の地の土すべりの
附合と違つて、何処かに敦朴
な所があるのに意を安んじ
て、いつそ氣楽なと喜んでゐ
る」と、「湖畔吟」に記してい

ます。その「湖畔吟」の中に楚
人冠の眼に新鮮にうつつた
様々な村人達が登場していま
す。何人か紹介しましょう。

提燈屋のはくせい屋——手
先の器用な、本業が提燈屋の
主人。この辺りの珍らしい鳥
をはくせいにして東京に売り
出しています。楚人冠の友人
も買っています。鳥を捕えて
もつていくと、肉をそっくり
抜き取つて持主に返し、羽の
ついた皮だけを30銭くらいで
買ひ取つて、はくせいにしま
す。中身はいらず外側だけを
必要とするのは、いかにも堤
燈屋の技らしいところだ。

瀨戸物屋の埴輪屋——勘兵
衛さんといひます。手賀沼界
隈から発掘される古土器のイ
ミテーションを作る名人。独
特の製法で特許をとり、一
つ一つに刻印を打ち、教育用

村の医者——呼びに行けば
真夜中でも自転車で来てくれ
る車代もとりません。少し性質
の悪い病氣だと見たら、見栄
を張らず専門医に見せてくれ
快、真言です。

村を挙げて互いにみな顔
を見知り合つてるところに、
初めてほんたうの自治があ
り、生活がある」と。単純、明
話の中で、定期乗車券を忘れ

て運悪く？ 検札があつて少し
もめた時のことを、
「さて、いよいよ我孫子に着
いて、通り合わせた駅員にこ
の事情を話したら、この人元
談半分車中で検札にきた車
掌を捕へて、「この有名な人を
知らぬ奴があるか」ときめつ
けたので、車掌は極りの悪さ
うな顔をして、急に私にあや
まった。あやまれた私の方
が、どれほど極りが悪かった
か知れない。」
と語っています。

我孫子の停車場で、定期券
を忘れたばかりに、「有名人」
の楚人冠をめぐつて、あやま
らなくてもよいのにあやまり、
あやまらなくてもよいのにあ
やまられる、互いに極りの悪
い事態が生じたのです。
また村の生活を始めて間も
なく、彼は、村人に慈悲善根を
施そうとしました。
「その手始めに社の同情週

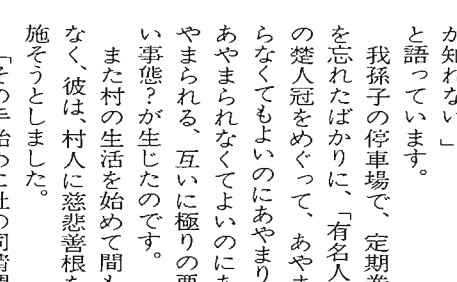


ハクセイ屋のある通り
提燈屋の剝製といつても、提燈屋を剝
製にしたのではない。提燈屋の親父が減
法器用な男で、この辺に鳥の多いのを利用
して、盛に剝製をこしらえては東京へ
売りに出してゐるのである。〈「はくせい
屋」より〉

「この村には、たいした金持
ちもゐない代りに、年も越せ
ないやうな貧乏人は一人もゐ
ません。」
村の日常にたじたじの楚人
冠ですが、そこは百戦錬磨の
ジャーナリスト。「しかし、な
まけものといふは概して正直
者だ。分に安じて些の野心を
藏せぬ様子のやうなものが、
兎角なまけものに多い」と結
んで、とかく働きもの万能の
世相へ皮肉を込め切り返して
います。



旧我孫子宿名主、小熊家。ここで、毎
月第2土曜日の夜、楚人冠を囲み「湖畔
吟社」の句会が開かれた。



大正時代の我孫子駅前と桜
停車場前の大通に桜が三十本ば
かりあるが、これに天狗の巣が
ついて年々ふえてゆく。花はだ
んだん咲かなくなり、すてお
けば枯れるかも知れない。〈「天
狗の巣」より〉

「この雨の降るのにお出かけ
ですか」と不思議がる村人の
挨拶に、雨の日にも出かける
ければならぬ楚人冠はぶ然と
したのでしよう。「なる程、こ
の土地では百姓か、土方か、植
木屋か、左官か、戸外で仕事す
るものばかりと言つてもいい、
位だから、雨が降りさへすれ
ば休むものと定めてある」と、
一人合点の解釈ながらライフ
スタイルの違いを認めていま
す。

SOJINKAN

編集、講演、取材旅行、パ
ーティーと活躍する壮年の楚
人冠のスケッチ。(河合英志
画、「楚人冠全集」一巻より)

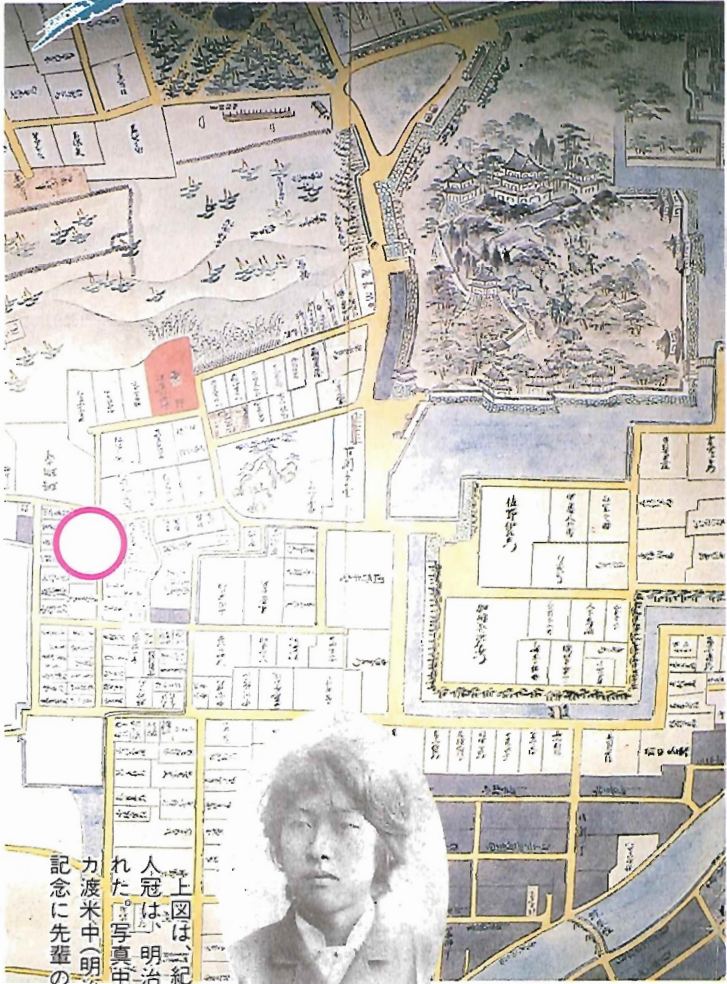


荆の道を直情径行

楚人冠の処女出版「七花八裂」の冒頭に「姓は杉村、名は広太郎……明治五年七月二十五日に生る。……医を志して遂げず、法を学んで得ず。政治経済を修めて達せず、文学宗教を究めんとして其の業を卒へず、学校に入るもの前後十八、其中辛く所定の学課を卒へたるもの僅に一。新聞記者となり、又記者となる。……くはしくは郵便切手封人にて尋ね合すべし。」とあるのは本人の記す略伝。それは明治41年までの彼の人生の足跡。ここでは他界した昭和20年までを未定稿ながら紹介。郵便切手封人にての尋ね合はは無用の事！

本欄の参考文献『三代言論人集』『近代文学研究叢書』57巻ほか

柳田國男と比される独自の学者で、エコロジの先駆者として最近とみに評価の高い南方熊楠(鶴見和子)南方熊楠「地球志向の比較学」ほか参照は紀州の生まれで、楚人冠の郷土の小中学校の五年先輩。そして生涯の友でした。南方が終生、官僚へ示した抵抗精神や仏教世界への深い関心、そして外国文化への開放志向など楚人冠にも共通した点が多く興味深いものがあります。



▲杉村広太郎



▲南方熊楠

上図は、紀州屋敷絵図(安政2年・1855)。楚人冠は、明治5年に和歌山下の谷町(○印)に生まれた。写真中は19歳の杉村楚人冠。写真下はアメリカ渡米中(明治24年)の若き南方熊楠。楚人冠は渡米記念に先輩の熊楠にこの写真を送った。

楚人冠は南方が情熱を注いだ自然保護の立場からの神社合祀令反対運動を支持し、また南方植物研究所設立の発起人の一人となっています。楚人冠は、明治5年(1872)、和歌山市で出生。本名広太郎。旧藩士であった父は楚人冠が生まれると間もなく病に倒れ、7年に他界しました。時に楚人冠3歳、母23歳でこの年より25年間、母と二人きりの生活となりました。一家の支柱を失った母子に

世間の風は冷たく人生の荒波が襲い、貧しい暮らしにくわえて、母子ともに病弱でした。細腕ながら気丈に針仕事へ精を出す母に励まされて幼児期を送ります。明治11年、和歌山の雄小學校に入学。17年、和歌山小學校に入学。小学時代には、半紙を綴じ早くも新聞を作り回覧。中学時代には、大阪朝日新聞を愛読したり和歌山測候所の宿直日誌をまねて、袖珍新聞を作ったりしていたといま



現在の朝日新聞調査部。楚人冠が調査部を新聞社に創設して80年。楚人冠発案の縮刷版を前にするのは初代楚人冠部長から数えて第40代目の現調査部長。

この間、先の古河老川らとともに仏教改革運動に奔走。また在学しながら「国民新聞」に入り、英文の翻訳を、さらに中央公論の前身である「反省会雑誌」の編集につき、当時の「宗教」「仏教」誌にも仏教に関する記事を掲載と精力的に活躍。また、この時期に鎌倉円覚寺に学校令を制定、中学校令も成立されましたが、楚人冠はこれに強く異議を唱えて学校長と対立。ストライキを敢行し、退学届を提出します。20年、16歳で上京し中央大の前身である「英吉利法律学校」に入学。入学したものの法律というものがもとと向きなことを知り退学。その頃、同じ下宿で中学の先輩の古河老川(仏教運動家)に出会い大きな影響を受けて宗教家を志します。21年、古河の学んでいた「国民英学会」に入学します。リベラルな校風が楚人冠の性に合ったのか23年に卒業。24年、病氣静養のため郷里の和歌山に帰省。翌年「和歌山新報」に招かれ編集長になりますが、彼の書く報道や批判は辛らつを極め、社長と衝突して26年に退社。この年上京して、三田の「自由神学校」に入学。29年卒業。

同年には越後地方をくまなく探訪しています。この当時楚人冠は我孫子に別荘をもつて、大正初めにかけてひとまず小山荘を構えたのです。

一流記者への道と新聞改革



朝日新聞調査部所蔵の「アサヒグラフ」創刊号(大正12年)。年月を経た表紙の破れ目から偶然にも楚人冠の随筆「チビフデ」が見える。

楚人冠が東京朝日新聞に入社したのは明治36年11月、31歳の時でした。入社した楚人冠の最初の仕事は、各国公使館を中心にした取材、英字新聞雑誌の翻訳など。翌年日露戦争が始まり、従軍した外電関係の空席を埋めるため、休日なしの熾烈な仕事が続いたといえます。明治38年、東北地方は大きな冷害に見舞われました。そのルポルタージュは楚人冠の正義感とヒューマニズムを遺憾なく発揮しており、読者に強烈な印象を与えました。連載が始まるや全国から義援金が集まり、政府も特別措置を急がざるを得なくなったといえます。今その「雪の凶作地」を読む者にも戦勝によって世界帝国の仲間入りをした大日本帝国の実体が、その国内においてどんな悲惨な状態であったかを知らされ慄然とします。のちに柳田國男が楚人冠を「無意識なる歴史家」と評したのもむべなるかなです。その年の6月には楚人冠は視察のため、満韓視察旅行団を引率しています。翌40年にはロンドン特派員となり、その記事「大英遊記」は楚人冠の筆名を一躍高めさせました。このロンドン特派員時代に

は近代新聞の在り方について深く啓蒙されるものがあつたようです。続いて41年には世界一周旅行を企画・実現させ、また43年には白瀬中尉の南極探検を後援しています。明治44年6月、朝日新聞社に索引部を創設、同11月には調査部を設置、初代調査部長となる一方、社会部次長も兼任しました。その調査部創設に関して楚人冠は次のように書いています。「調査部が、初めて東京朝日新聞の中に出て来た時は、社内嘲笑の的となつた。全体調査部は何をしてゐる。三人も四人もかかって新聞を切り抜いて何になる。あんなひまつぶしの事をする位なら、もっと有用に人間をつかふ道がいくらかある。……私はこの調査部に立て籠ること十有二年に及んだ。……私が調査部を退く頃には、誰も調査部の一日も欠くべからざるを認めるようになってゐた。」

家庭生活の上では7男1女をもうけていますが、長女を明治42年に、長男を大正11年に、2・3男を大正12年の震災で亡くしています。このため、大正初めから楚人冠をして再び立ちあがる気力をもたらした地こそ、震災後に居室を構えた我孫子の白馬城だったのです。

西洋新聞界から知識を吸収しながらこのように抜群の創意の才で朝日新聞の発展に寄与しました。この間、夏目漱石、「二葉亭四迷」、柳田國男、南方熊楠など多彩な人々と交遊関係を持ち、石川啄木を「朝日歌壇」の選者とし、長塚節、「土」を評価したのも楚人冠でした。

大正3年(1914)の第1次世界大戦に際しては、我孫子から急遽ロンドンに旅立っています。

その後もたびたびの海外派遣を歴任、大正8年には朝日の監査役となりました。

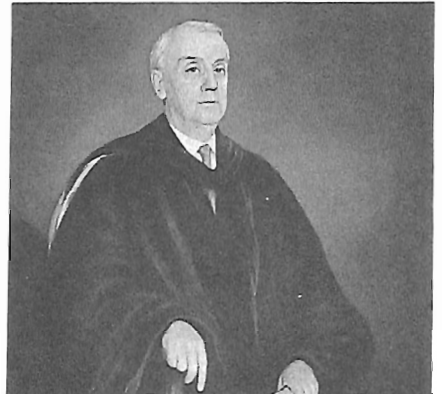
その年同紙の縮刷版を発行。大正10年にはグラフィックを創刊。翌年グラフィック局長、11年アサヒグラフィック主幹。この年審査部を創設。その社説で、威力の大きい武器を擁する者は殊に自ら之を慎むの要がある」と他社に先んじて審査部を設けた理由を述べています。

1872 ~ 1945 Mr.

地球を廻る国際ジャーナリスト

楚人冠の物の見方、考え方の根底には「人道主義」に基礎を置いたヒューマニズムがあるといわれています。このような彼の思想形成に、何度の海外生活とそこで得たさまざまな体験がかかわっていたであろうことは想像に難くありません。

楚人冠が外国を訪れた最初の機会は明治39年(1906)の満韓巡遊ですが、それ以前に4年間ほど米国公使館に勤務する機会があり、西欧的行動やモラルを学ぶ所があったものと思われまます。満韓巡遊は朝日新聞社における楚人冠の海外での初仕事でもありました。日露戦争の結果わが国の勢力範囲に入った朝鮮と南満州の現状を視察し、戦跡



アメリカで最初に新聞学講座を開いたミズーリ大学ウィリアムズ教授の写眞。昭和2年、東京で開催された国際新聞大会で来日。楚人冠郵サロンの壁にかけられている。楚人冠は、日本ロータリアンの草分けでもある。

これらの企画の底に流れているものに、新聞社のサービスマニヤに関する楚人冠の主張があります。「新聞社は個人の持物ではない。公共の持物である」「新聞社には各般のサービスを行ふに都合のよい各種の便宜がある」という楚人冠の認識は当時における卓見といえるべきでしょう。

風流で反骨の田園人



ゴルフ姿の楚人冠と現在の我孫子ゴルフ倶楽部。

我孫子へ来てから健康のため、ゴルフをはじめました。文字どおり「50の手習い」です。今、自衛隊下総基地があるとこに、「武蔵野カントリークラブ藤ヶ谷コース」(現在の「藤ヶ谷カントリークラブ」とは異なる)。というのがあって、なかなか良いコースだったらしく、大正15年に楚人冠は会員になりました。練習は翌年から始めました。

の今の我孫子ゴルフ倶楽部の創立にも関与しましたが、戦後特に最近の過熱したゴルフブームは予知できなかったに相違ありません。これまでの文筆活動の集大成として、昭和12年1月から「楚人冠全集」全18巻の刊行がはじまり、同年まで続きました。

を申うために同新聞社が企画したもので、楚人冠は巡遊船を引率して、釜山から仁川、奉天、旅順などをめぐり約1か月の旅を経験しました。

この旅の紀行文に、「大英遊記」があります。楚人冠の紀行文は単なる見聞録にとどまらず、むしろ旅先で出会った人々の省察に主眼がおかれています。

この書に「アサヒグラフ」の活動は、後進に道をゆずることが多くなっていました。が、旺盛な執筆欲はいささかも衰えを見せず、のちに芝居となり上演もされた「うるさき人々」を昭和2年、8月から12月にかけて「東京朝日新聞」に連載。

そのほか、「アサヒグラフ」「英語青年」「婦人の友」週刊の会——郵便局職員もいれ

その後、精進の甲斐も多少あって、たまにはワンラウンド110ぐらいでまわれるようになり、本人も永年の努力と年功を認め、柔道の名誉段位のようなものがあってもいいんじゃないかと主張したところ、とうとうハンデイ22になったという逸話もあります。

明治、大正、昭和三代にわたる一大ジャーナリストは、生前みずから求めておいた、八柱霊園に静かに眠っています。

放送を聞いた楚人冠は、「これでホッとするやつがずいぶんいるだろうな」と一言つぶやいたそうですが、本人が一番その心境だったにちがいないと推察されます。その約2か月後の10月3日、療養中の「白馬城」で不帰の客となりました。享年73歳。



楚人冠が創設した朝日新聞調査部から提供された、社のデスクに向かう大正時代の楚人冠



みずから「私は人間の出て来ない山水の景色などいふものにあまり興味を持たぬものである」と記しています。書くものは一見シニクで寸鉄人を刺す趣ですが、一方でどこか暖かいヒューマニズム



④「半球周遊」(明治42年)は楚人冠企画の日本初めての新聞社主催の世界一周旅行本。フランス、ドイツ、ロシア、シベリアを経ての大旅行。⑤半球上に辿った旅行の経路を記す口絵。



大正12年の関東大震災当時の上野公園。西郷さんの銅像に尋ね人のピラが無数に。楚人冠は震災で2子を失う。



楚人冠の墓(松戸市八柱霊園)。法名は「天智院楚冠秀文日広居士」。近くに我孫子の別荘の草分け、嘉納治五郎の墓所がある。

「無意識なる歴史家」 楚人冠をめぐって

我孫子市ゆかりの民俗学者、柳田國男は自身がすぐれた歴史家。その柳田をして「無意識」にしてすでに歴史家といわしめた楚人冠。その楚人冠との出会いを名エッセイストとして知られる現代の歴史家が回想。そしてこのジャーナリストにして「無意識なる歴史家」を地域と生活の視点からみつめた、市民参加の市史づくりにかかわる一市民の楚人冠論。



撮影 水津沈一郎

竹林は望庵村川別荘内のもの。楚人冠「続湖畔吟」には「竹」の題の随筆がある。

それは漆黒の闇夜だった。六十年余の昔のことなので年月は思い出せないが、蛙の声を聞いたとか、螢が飛んでいたという記憶もない。私の山荘から杉村邸への道は江戸時代からの子の神参道を辿れば極めて簡単なわけだが、子の神境内から先には昼間でも気味のわるいような杉の巨木の大森林が続く。人家の明りは全然みえないし、道は途中で切り通し風になつてしまい田圃を越してまた坂を登ると左手が広大な楚人冠の「白馬城」である。今は舗装されているがこの切り通しは清水が湧くので暗れた日でもいささか難所であった。提灯でももつてくればよかったが、この夜の杉村邸訪問は忘れたくない「暗夜行路」であった。咫尺の間に相対した楚人冠さんの品格のある風貌に打たれたが、一番印象にのこるのは着流しのお召し、青年の目にも頗る高価なものに映ったことである。名士ともなれ

ともその一期一会の機縁をつくってくれたのは今は亡き畏友高津繁君であった。昭和三年に呉茂一先生のホームとヴァージルの講義に出席したのが縁であった。一期一会を昭和五年と仮定するとつき合ってからまだ三年にもならない。しかし二人の親愛の情は急速に深まっていた。昭和五年といえは朝日新聞

の楚人冠からもらって来てくれということだった。高津君は神戸の大富豪の二男で多少「坊ちゃん」の面もあったが、当時東大言語学部の「三羽鳥」とうたわれた秀才の一人であった。多分別荘分の譲地の向う三軒隣りを想像して使い走りをお願いのうが、これをいやとも言わずに引き受けたことで一期一会

が生まれたのであった。驚愕に接したといえはきこえはよいが友人の使い走りでご迷惑にならぬように早々に辞去した。私の楚人冠との心の一期一会は六十年後の昨秋、我孫子市史の企画で三時間にわたる座談会が拙庵で行われたときにはじまる。私はこの時はじめて「湖畔吟」を拾い読みし

たが、それは椿の太木を伐り倒したあとに出たヒコバエであったことがわかり、その巨根を掘って移植することは不可能とわかって断念した話である。その花は「大輪の二重の白花で、白とはいひながら、花びら一面に有るか無きかの薄桃色かぼくと香つて見える。如何にも美しい」(昭和七年二月)と記されている。

これが発表されて三十年以上たつて私は拙庵の生垣の中に、これと全く同じといつてよい椿を見つけた。東京のヴェテラン庭師の手を借りて母屋のわきにひきずり上げて植えた。翌春活着したらしい。そして、毎年たくさん花をつける。楚人冠との愛椿の心の一期一会は一昨日の出来事であった。わが山荘が存続する限り、この椿は、毎年三月ともなれば、その独特の花の色香によって楚人冠の失恋の心を慰めることであろう。

一九九一年十二月四日
一九〇七年東京生まれ。西洋史家。東京大学名誉教授。日本学士院会員。著作に「村川堅太郎古代史論集」ほか。一九五九年日本エッセイストクラブ賞受賞。我孫子市寿に父堅固以来の別荘をもつ。



むらかわけんたろう

一期一会 望庵 村川堅太郎



楚人冠愛蔵の漱石遺墨「椿」

ラン庭師の手を借りて母屋のわきにひきずり上げて植えた。翌春活着したらしい。そして、毎年たくさん花をつける。

楚人冠との愛椿の心の一期一会は一昨日の出来事であった。わが山荘が存続する限り、この椿は、毎年三月ともなれば、その独特の花の色香によって楚人冠の失恋の心を慰めることであろう。

一九〇七年東京生まれ。西洋史家。東京大学名誉教授。日本学士院会員。著作に「村川堅太郎古代史論集」ほか。一九五九年日本エッセイストクラブ賞受賞。我孫子市寿に父堅固以来の別荘をもつ。

地域と生活と ジャーナリスト

手賀沼と白馬城を喩えて、「華府(ワシントン)のポトマック(川)の流れを眼下にしたマウント・バーノンに彷彿たり」と、我孫子を訪れた新聞界の盟友徳富蘇峰、下村海南鈴、木文史朗たちは最高の賛辞を呈したといわれていますが、それが決して大仰でなく、楚人冠を象徴するにいかにもふさわしい言葉かとも思われま

す。楚人冠はすぐれてグローバルなキャラクターの持ち主ではないでしょうか。世界一周の企画、実行をはじめ、特派員として数々の国の生活体験をし、国際人としての感覚を十分に備えながら、いっぽうで、国内の東北地方の冷害地域や新潟県下への長期にわたる取材調査も行い、その視点の共

通するところは、地域と人のいとなみへの深い関心です。楚人冠は、地域と自分とのかかわりをすぐに実践に移すという生来の旺盛なジャーナリズム根性を発揮し、例えば、ロンドンに滞在後すぐにタイムズやデイリー・メールに投書をし、自らの意見を堂々と述べて、一躍知名度を高めた

といわれています(ちなみに、日本の新聞の「投書欄」も楚人冠の創設)。これは国内の東北地方や越後に滞在しても、すぐに地域の人の困窮裏面に上がり込み、地方の生活を全国に紹介しながら、同時に中央の文化を地域に伝えようとする姿勢と同じ線上にあるとみてよいでしょう。

従って楚人冠は、同じ新聞界の仲間が、後年社の経営に当るとか、政界に打つて出るといった華やかな立ち回りに縁遠い人でしたが、いまに残る数々の仕事の着眼点の確かさについて、現代のわれわれの学ぶべきところは数多く

あります。よく指摘されることですが、70年前すでに企画されてきたことに驚嘆してしまいます。この先見性がいくつも見とれます。例えば、土曜日は休日ですべしといっています。学校の授業や予習・復習に毎日追われていたのでは、愉快に学問をするという余裕がなくなるからです。土曜日を休日にしたほうが、勝手に勉強が得意、勝手にやれるので、休日ですれば勉強ができる。「勘定」なるというわけです。そして自らも実行していますが、その過ぎ方は見事です。そのほか、毎日排出するゴミの処理に頭をいたため、30



当時の家並み。自転車姿は楚人冠か。湖畔吟の一句「貧しけれど人数だけの西瓜かな」に楚人冠はほろり。ここに楚人冠の我孫子観が。

さて、我孫子に移ってからの地元の人たちとの交流についてはすでに触れられています。そのような酒脱な筆勢で活写した「湖畔吟」のなか

に、こんな例えは、土曜日は休日ですべしといっています。学校の授業や予習・復習に毎日追われていたのでは、愉快に学問をするという余裕がなくなるからです。土曜日を休日にしたほうが、勝手に勉強が得意、勝手にやれるので、休日ですれば勉強ができる。「勘定」なるというわけです。そして自らも実行していますが、その過ぎ方は見事です。そのほか、毎日排出するゴミの処理に頭をいたため、30

0年は保証できる場所をつくり得意満面のようす、混雑した通勤列車の人品のことなど、こんなにちの問題がとりあげられていて興味をそそります。志賀直哉は医者がいけないからと我孫子を去りました。楚人冠はむしろ医者に恵まれていて、どういふことなのでしょう。

いずれにしても楚人冠は、地域や生活を大切にされたジャーナリストであると同時に、自由人風流人としての真骨頂も貫いた希有なヒューマニストでした。

新潮社、杉村健、杉村松子、単独舎、東京大学社会科学研究所新開研究所、南方文枝、八坂慶房、山下辰造、山階鳥類研究所、和歌山市教育委員会、和光光夫、我孫子市史研究センターの皆さんにお礼申し上げます。ありがとうございました。

1921年に村川別荘に移築された我孫子宿本陣の離れ。「湖畔吟」に登場する飯泉「半六」が斡旋したとされる。

撮影 水津沈一郎

編集後記

本誌の編集にあたり執筆、取材、写真提供等に協力いただいた秋谷半七、朝日新聞東京本社調査部、樋崎委員、和光光夫、我孫子市史研究センターの皆さんにお礼申し上げます。ありがとうございました。